

岩松町内会スピードダウン!



今月初め岩松町内会(西村良雄会長)に「野生動物出没スピードダウン」の看板が設置され、ドライバーに呼びかけている。

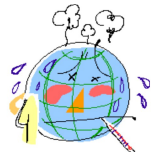
タヌキさんのイラストが描かれている。

この区間は車による野生動物の犠牲事故が多く10kmのスピードダウンが事故を防げる可能性があります。

紙面文字が大きくなりました!

今月号よりねっとわーく屈足の誌面文字が大きくなりました。読みやすく皆様に親しまれますようにこれからも努力いたします。
ねっとわーく屈足編集室

平成最後の漢字は「災」でした。年が明けるとは言え、様々な苦勞を強いられる方がいます。お見舞い申し上げます。今年がよい年になることを切に願います。なぜ災害が多いのでしょうか。地震を防ぐのは難しいですが、天候不順は、人類が発展する過程で地球を破壊してきた結果と考えれば、今からでも何かできるかもしれません。昨年、ある研究チームの衝撃的な調査結果が発表されました。欧州とロシア、日本の被験者の排せつ物から微小なプラスチック片が検出されたのです。これは「マイクロプラスチック」と呼ばれ、最も多く検出されたのは、ペットボトルのふたや飲料水のボトルなどに使われているポリプロピレンやポリエチレン・テレフタレートだそうです。プラスチックゴミは海を漂い、粉々になりながら有害物質を吸着します。それは魚に取り込まれ、体内に有害物質が蓄積します。今回の結果は、すでに人間も直接マイクロプラスチックを取り込んでおり、有害物質が体内に蓄積される可能性があるというを示しています。さらに小さな「マイクロビーズ」というものもあります。洗顔剤などに含まれ、毛穴の汚れを除去し皮脂などを吸着するので、お肌がさっぱりするということです。下水処理では取り除けないほど小さいため、そのまま川へ流され、同じように有害物質を吸着します。小さなプラスチックトンですら取り込むことができるため、さらにひどい結果を生むと危惧されています。以前、私もそういった洗顔剤を使っていました。しかし、その話を聞いてすぐにやめました。スタートは、一人の行動から始まります。一人一人の力は小さいですが、多くの力が集まったときに、きっと大きな何かができると思います。一年の計は元旦にあり。大きな目標をもって、小さなことから始めてみませんか?



「新年に思う小さな一歩から 始まる大きな一歩」

新得町屈足南小学校校長 高 充慶



「元号の改元による銀行法改正に伴い、全金融機関のキャッシュカードを不正操作防止用のキャッシュカードに変更する手続きが必要です。同封されているキャッシュカード変更申請書に銀行名・支店名・口座番号・暗証番号を記載し、現在お使いのキャッシュカードを同封し、返信用封筒で返信して下さい。一般社団法人全国銀行協会」というもの。気を付けて下さい。様々な手法によってお金を騙し取るという詐欺が横行しています。不審な電話・ハガキ・封書・請求・訴訟などを受けた際には、まず警察に連絡。

本

当販売所では様々なジャンルの書籍、雑誌、文庫、新書、週刊誌の定期購読など、ほとんど全ての出版物を確実にお取り寄せします。今読みたい話題作! 欲しい本をお取り寄せ!

無送料

せ! 気軽にお問い合わせください。通販は送料がかかりますが当販売所は無料です。※当店取り置きとなります。宅配サービスは致しません。

「ねっとわーく屈足」駐在所



鈴木進司 巡査部長 No.31

「新たな詐欺の手口」道内で「元号の改元による銀行法改正について」と題した詐欺の封書が届くという事件が発生しています。



「元号の改元による銀行法改正に伴い、全金融機関のキャッシュカードを不正操作防止用のキャッシュカードに変更する手続きが必要です。同封されているキャッシュカード変更申請書に銀行名・支店名・口座番号・暗証番号を記載し、現在お使いのキャッシュカードを同封し、返信用封筒で返信して下さい。一般社団法人全国銀行協会」というもの。気を付けて下さい。様々な手法によってお金を騙し取るという詐欺が横行しています。不審な電話・ハガキ・封書・請求・訴訟などを受けた際には、まず警察に連絡。

道新一月号の御案内です。ポケットブック



ポケットブック1月号 食べやすい料理 味の低下など、年齢とともに起こる体の変化によって食事を十分にとれなくなることは、老化を加速させること。健康的な生活を続けるためにも食べやすくする工夫をして、バランスよく食べることが大切です。誰でもおいしく、楽しく、家族も一緒に食べることができ、配布済み。

「揚げ物」です。お楽しみに。

連続小説

加奈子

赤池武臣

三ヶ月前、ある有力会社の支店長だと名乗り無理矢理、頼み込んで入居した男と一ヶ月も経たぬうちにいい仲になった時子は、仕事が終わる夜の八時過ぎになると、炊事場にある有り合わせの物をみつくり、袖の下に隠して男の所に通うようになった。律義な亭主に逃げられ、加奈子の所に泣きついて来たのは丁度半年前の事だ。だが真面目に働いていたのは三月位なもので、目新しい男が入居して来ると馴(な)れ馴れしく色目を使ってはいいつの間にか関係をもつ。そんな母親に子供達は反抗し、二人の子供の面倒を見るのはもっぱら加奈子だった。「時さん、もう少し子供達の事を考えて上げてよ。日増しに手がつけられなくなっていくじやないの。可愛想だよ子供達が、行く行くは子供に面倒見てもらわなくてはならないのよ。あんたも、もう四十よ。そういうまでも若くはないのよ」(子供達の身の回りの事は一体、誰が見てやっているのよ)と言いつつ加奈子は口をつぐんだ。時子の顔に何の反応もない。無駄だと思った。これ以上言えれば、また子供達に当たり散らすだけだ。それにしても同じ女であるはずの時子と自分が男に對し、何故(なぜ)これ程まで違うのかわからなかった。加奈子にとって男は過去の遺物でしかない。さんざんいたがられ、利用され挙句(あげく)の果てはひとり放り投げられた。加奈子の人生に金の執念を教えてくれたのが男だ。時子を見てみると、とことん女の情感を持ち合わせていない自分が妬(ねた)ましくなってくる。「皆さん、お早ようございます。朝の食事ですよ。冷めないうちに戴いて下さい」加奈子はマイクのボリュームをいっぴい上げると大声で叫ぶ。今朝は特に自分の声に色気がなく、がさついて聞こえるのに腹立つ。これまで、さほど意識していなかった事なのに今日は妙に気になった。二回程、マイクで呼びかけると後を時子に任せ、自分の部屋に引き下がった。 つづく